

## 2009 横浜国際トライアスロン大会等の開催結果について

### 1 2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会

#### (1) 開催日・参加者数 等

21の国から101人が参加

開催日	区 分	年 齢	参加者数
平成21年 8月22日(土)	ユース女子	16歳～19歳	7人
	エリート女子	18歳以上	29人
平成21年 8月23日(日)	ユース男子	16歳～19歳	23人
	エリート男子	18歳以上	42人
合 計			101人

#### (2) 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、関内・山下地区、赤レンガ倉庫周辺の特別コース

・水泳1.5km、自転車40km、ランニング10km 合計51.5km (ユースは各半分の25.75km)

#### (3) 試合結果

各種目優勝者			
区 分	選 手 名	国 名	備 考
ユース女子	佐藤 優香 (さとう・ゆか)	日 本	
エリート女子	リサ・ノルデン	スウェーデン	2009年 世界ランキング第2位
ユース男子	工藤 駿 (くどう・しゅん)	日 本	
エリート男子	ヤン・フロデノ	ドイツ	北京五輪金メダリスト

#### (4) 日本人選手の活躍

エリート女子の井出 樹里 (いで・じゅり) 選手が3位で銅メダルを獲得

#### (5) 観戦者数 (世界キッズトライアスロンの観戦者数を含む)

272,000人 (2日間) ※8月22日(土)104,000人、23日(日)168,000人

### 2 世界キッズトライアスロン大会

#### (1) 開催日時

平成21年8月23日(日) 13:00 から年齢別に順次スタート

#### (2) 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、山下ふ頭を自転車競技の会場とする特別コース

- ・キッズ1 (6～9歳):水泳0.10km、自転車5km、ランニング1km 合計6.10km
- ・キッズ2 (10～15歳):水泳0.15km、自転車10km、ランニング2km 合計12.15km

### (3) 参加者数

13の国と地域から257人が参加（うち横浜市在住者は20人）

区 分	年 齢	参加者数		
		女子	男子	合計
キッズ1	6歳～9歳	31人	54人	85人
キッズ2	10歳～15歳	81人	91人	172人
合 計		112人	145人	257人

## 3 世界こどもスポーツサミット in 横浜

### (1) 開催日時

平成21年8月21日(金) 10:00～16:15

日本代表キャプテン30名と海外キャプテン15名が、6月からインターネットやキャプテン会議を通じて、宣言文の素案を作成。8月19日から20日にかけて事前会議等を開催。

### (2) 会 場

パシフィコ横浜 会議センター

### (3) テーマ

「フェアプレーの精神で、よりよい未来をつくろう！」  
—私たちが、スポーツを通じてよりよい未来づくりのためにできること—

### (4) 参加者数等

16の国と地域から927人が参加

区 分	海 外	国 内	合 計
子ども	89人	384人	473人
大人	33人	421人	454人
合 計	122人	805人	927人

### (5) 当日のプログラム

基調講演、テーマ別発表、公開討論会、「世界こどもスポーツ横浜宣言」の採択等

### (6) 「世界こどもスポーツ横浜宣言」(別紙参照)

#### ア 趣旨

日本及び海外の各代表キャプテン達が、「環境」「健康」「友情・平和」「努力・挑戦」「フェアプレー」の5つのテーマについて公開討論し、宣言文を発表

#### イ 国際オリンピック委員会への訪問

この宣言文を世界中に広げていくことを目指し、平成21年9月22日に、子ども達の代表2名(小学生の男女)が国際オリンピック委員会本部(スイス・ローザンヌ)を訪問し、会長(ジャック・ロゲ氏)に手渡す予定

## 4 その他

ボランティアは平成21年8月19日(水)～8月24日(月)まで、延べ1,381人

《2009トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会》



《世界キッズトライアスロン大会》



《世界こどもスポーツサミット in 横浜》



## 世界こどもスポーツサミット in 横浜

# ✿ 「世界こどもスポーツ横浜宣言」 ✿

私たちは、スポーツを通じて学んだ「フェアプレーの精神」を、スポーツの世界に限らず広く「社会」や「地球」、「人」との関わりにおいても活かすことで、現在、世界が抱える様々な問題の解決につなげ、よりよい未来づくりを目指していきます。

### 行動指針

1. 私たちはスポーツを通じて、たがいの立場を尊重し、仲間と協力することによって、環境問題に立ち向かいます！
2. 私たちはスポーツを通じて、健康的な身体と精神を育み、いきいきとした生活を目指します！
3. 私たちはスポーツを通じて、友情の輪を広げ、チームワークを育みながら、平和な世界を作ります！
4. 私たちは、笑顔をたやさず、自信を持って、何事にも努力・挑戦を継続し、スポーツを通じて、努力・挑戦の大切さを世界中の人々に伝えます！
5. 私たちは、ルールを守り、全力でプレーし、スポーツを通じて世界の人々にフェアプレーの精神を広めていきます！

1. 私たちはスポーツを通じて、たがいの立場を尊重し、仲間と協力することによって、環境問題に立ち向かいます！

環境問題には、地球温暖化、水質汚染、大気汚染、地質汚染、ゴミ問題、生態系の問題などがあります。私たちは、世界中の人々がいつまでも笑顔で安心して暮らしていくために、地球環境を守り続けることが必要であると考えます。

しかし、今、世界では環境問題に関する、国際的な対立が起こっています。たとえば、地球温暖化の原因である温室効果ガスを多く排出してきた先進国と発展途上国との対立です。先進国を中心に温室効果ガスの排出削減が叫ばれていますが、一方で、発展途上国は経済的な発展のためにはエネルギーを必要とします。しかし、このような対立を乗り越えて、世界全体で協力しなければ環境問題は解決できません。

環境問題の解決には、スポーツと同じように、たがいの立場を尊重し、仲間と協力することが大切です。一人ひとりが、今すぐに何ができるのかを考え、小さなことから始め、ねばり強く行動し、周りの人々にも呼びかけるべきです。私たちはスポーツを通じて、世界中の人々と心をつなげ、環境問題に立ち向かいます。

2. 私たちはスポーツを通じて、健康的な身体と精神を育み、いきいきとした生活を目指します！

私たちは元気に楽しくスポーツをすることで、気分が晴れて、いい気分転換になると感じています。スポーツをすると「喜び」「悲しみ」「悔しさ」など、さまざまな感情を抱くこともできます。たくさんのおスポーツ経験を通じていろいろな感情を抱くことで、私たちの心は豊かになります。心が豊かになるとまわりの人の気持ちを理解でき、思いやりの心を育むことができます。

スポーツでからだを動かすことを続けると、基礎体力がつきます。基礎体力があると、行動範囲もひろがり、毎日の暮らしが活気にあふれ、充実した生活を送ることができます。

私たちは、スポーツを通して得られた精神と体力は日常生活にも役に立ち、豊かで充実した生活を送るために欠かせないものであると考え、今後もスポーツすることを続けていきます。

3. 私たちはスポーツを通じて、友情の輪を広げ、チームワークを育みながら、平和な世界を作ります！

平和な世界とは、口論や紛争、戦争がない世界です。また、すべての人たちがわかりあい、思いやりを持って暮らすことができる世界です。その実現には、人と人とが仲良くしていくことが重要です。私たちは、人と人とが仲良くなるためにスポーツが大きな役割を果たせるものだと思います。なぜなら、試合中は真剣に戦っていても、試合後はたたえ合うことができるのがスポーツだからです。また、スポーツは同じルールのもとで行うので、言葉や国籍の違いを乗り越えることができます。このようにスポーツを通じて、友情の輪がだんだん大きくなり、争いや差別が少なくなり、世界がより平和になっていくと思うからです。

私たちは、世界をもっと平和にするために、スポーツを通じて友情の輪を世界中に広げていきます。

4. 私たちは、笑顔を絶やさず、自信を持って、何事にも努力・挑戦を継続し、スポーツを通じて、努力・挑戦の大切さを世界中の人々に伝えます！

私たちはスポーツを通じて、高い目標に挑戦し、努力することの大切さを学びました。目標に向かっていく過程では、たくさんの失敗や困難があります。失敗や困難を乗り越えることは簡単なことではありません。

しかし、そんなときでも笑顔で自信を持って仲間とともに一致団結し、努力・挑戦することにより、失敗や困難をのりこえ、よりよい未来を切り開くことができることをスポーツは私たちに教えてくれました。

私たちはこれから、何事にも努力・挑戦し、あきらめず自分の限界に立ち向かっていきます。そして、スポーツを通じて、努力・挑戦の大切さを自分たちの力で世界中の友達から友達へと伝えていきます。

5. 私たちは、ルールを守り、全力でプレーし、スポーツを通じて世界の人々にフェアプレーの精神を広めていきます！

フェアプレーとは、プレーヤーがルールを守り、相手を尊重し、相手に感謝し、正々堂々とプレーすることです。プレーヤーはフェアプレーの精神を持っていると、試合に勝っても負けても気持ちがいいものです。

しかし、広く世の中を見渡すと、さまざまな場面で、ルールを守らない、相手を思いやらない、卑怯な態度をとる人たちもいます。彼らは、たびたびけんかしたり、人をだましたりして、弱い立場の人々を苦しめたりします。

私たちはフェアプレーの精神を、スポーツ以外にも広げることが必要だと思います。一人がフェアプレーの精神を持っていると、そこから仲間が増えていき、さらに仲間どうしの輪がフェアプレーの精神を世界に広めます。一番大切なことは、私たち一人ひとりがフェアプレーを心がけることです。

そして、フェアプレーが世の中に広まれば、きっと犯罪や争いは減り、住みよい世界になるでしょう。私たちは、国境を越えて世界の人々とスポーツをすることで、フェアプレーの精神を広めていきます。

日時：2009年8月21日

場所：パシフィコ横浜

主催：2009 横浜国際トライスロン大会等組織委員会

[http://www.jtu.or.jp/yokohama/event/summit\\_declaration.html](http://www.jtu.or.jp/yokohama/event/summit_declaration.html)